

Dr.ひろみの

ハッピー子育てひろば



みなさん、こんにちは。最近、児童福祉法・児童虐待防止法の改正で家庭での体罰が禁止となり、ニュースでも話題になりましたね。インタビューされていた夫婦が「体罰としつけの違いがよくわからない。」「体罰とされることを自分はしているし、問題ないと思っていた。どうすればいいのか」と言っていたのが印象的でした。〇〇するのはだめ、△△もだめと言われても、いうことを聞かない子どもにどうすればいいのかという具体的な方法を知らなければ、戸惑うばかりです。私は「良い親子関係を築き、体罰をせずに、有効なしつけをする方法」を学べる親向けの子育てプログラムを行っています。このハッピー子育てもそのプログラムを一部基にしており、これを読み実践することで、体罰をしないで済み、子どもを傷つけずに健やかに育てることができます。

☆プロフィール☆
鈴木 裕美（すずき ひろみ）
香川大学医学部 小児科専門医

今回は
『善意のネグレクト』です

子育て通信 2号より

「見てほしい」という気持ちを満たすのは、実は難しいのです。

子どもが求める3つのこと

- ① 愛情
「愛してほしい」
- ② 関心
「見てほしい」
- ③ 前向きな注目
「認めてほしい」



子育てあるあるな言葉かけ

多くの方が子育てに熱心で、子どもにとっても関心があります。一生懸命に子どものことを考え、心配するあまり、



こうするのがベスト！

あなたのためよ！

〇〇くんも
やりたい
でしょ？



本当はやりたくない。むしろ辛い。

本当にそうなのか？振り返ることも大切かもしれません。

ネグレクト（育児放棄）された子どもは、「見てほしい」の気持ちが満たされず、親を含めて人間全体に「信頼感」をもつことができず、人との関わりに困難を感じる人が多いものです。実は、過干渉で育てられた子どももまた、「（本当の自分を）見てほしい」「（本当の気持ちを）わかってほしい」という思いが満たされず、同じように「信頼感」を育てることが難しくなります。子どもの気持ちや意思をネグレクト（無視）する。子どものことを思っていることだとしても、それはネグレクト（育児放棄）した時と同じ影響を子どもの心に与えます。それを私は「善意のネグレクト」と呼んでいます。そういう子どもたちは、遅かれ早かれ自分の気持ちを無視して生きることに疲れ、自分を生きている自分に悩み、苦しめる親に怒ります。親も良かれと思ってしているので、何が悪いかわからず、期待通りにならない子どもに腹が立ち、心無いことを言って傷つけてしまいます。

自分は子どもの気持ちを理解しているか？自分が見ている子どもは本物か？

一度立ち止まって考えてみて下さい。目を見て話を聞いてください。呼ばれたら、「なあに？」と優しく答えてください。もし、悲しいことや困っていることも、あなたに話せているのであれば、それは「信頼感」が築けている証拠です。

